

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300634		
法人名	株式会社 悠隆		
事業所名	グループホーム「ととろの杜」	ユニット名	B棟
所在地	宮崎県延岡市土々呂町5丁目2565-1		
自己評価作成日	平成28年8月21日	評価結果市町村受理日	平成28年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kanistrue&liyosvoCd=4570300634-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成28年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の付近にあり、車や電車の往来もある為、生活を感じられています。目下には、自動車学校があり、広めの窓から教習の様子を眺めることができる等の特色があります。その他、高台にある為に津波の心配が少ない点もメリットです。行事としては、納涼祭や地区の幼稚園生との交流会や餅つき大会等を計画し、ご利用者様及びそのご家族、近隣住民の皆様と一緒に実施しています。その他、介護実習や看護実習などの受け入れも積極的にを行い、学生の就職活動にも協力しております。また、当ホームで10年以上勤務している職員が数名おり、新人職員の良き相談相手になる等、チームワークが良く、活発に活動しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、市内に複数の介護施設等を運営しており、本人や家族の希望、心身の状態に応じたサービス提供に努めている。特に、医療との連携がスムーズに行え、主治医の定期的な訪診や緊急時の対応、介護計画書に対する医療面からのアドバイスなど、適切な支援につながっている。また、運営推進会議の意見を積極的に取り入れたり、地域行事への参加やホーム行事への地域住民の参加、介護実習生の積極的な受け入れなど、開かれた施設となっており、ベテラン職員と新人職員相互のチームワークが良く、ホームの理念に基づき、切磋琢磨しながらよりよいサービスの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心にゆとりをもってあなたのまますを支えます」といった理念を職員室に掲げ、達成する為に『あなた』を尊重し、『あなた』の想いを受けとめます」といったユニット内での共通の目標を立てている。		理念に基づいたケアを実践するため、ユニット独自で職員共通の目標をつくり、言葉遣いなど精神的ケアを中心に、より具体的に行動できるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地元幼稚園生との交流会やホーム主催の夕涼み会、餅つき等に地域の方達を招待し、交流を図っている。		ホーム主催の行事に地域の人を招待したり、幼稚園生との交流会など、「来ていただく交流」に加え、祭りや幼稚園の運動会に参加するなど、地元と積極的な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方へホーム内を案内し、グループホームがどのような所でどのような生活を送っているのかをお話すると共に、認知症について相談があれば支援方法についてアドバイスをしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期の状況報告以外で、職員が参加した研修についての報告や実習生に参加をして頂き、学校での取り組み等を話してもらっている。また、事故についての対策等、細かい所で助言を頂き、改善に努めている。		ヒヤリハットや事故報告、ホームの活動状況や今後の予定、研修内容の報告など、積極的に公開し、広く意見をもらい、改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと交互に運営推進会議に参加をして頂いている。推進会議で話す議題についての相談や事故報告についての意見等を頂いている。		運営推進会議への参加や認定更新時に利用者の様子を伝えるなど連携を深めており、常に相談、協力を求められる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての理解を深めるとともに、拘束をしないケアを実施している。玄関については、防犯の面からとホームが2階にある為に事故防止の視点から施錠をしている。		ホームが建物2階に位置し、転落などの危険が大きいことから、やむを得ず玄関のみ施錠しているが、研修を繰り返すなど、拘束の弊害を念頭に置き、支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内・外での研修にて、虐待にはどのようなものが含まれるのかといったことや起こる要因について理解を深められるよう努めている。日常会話の中で些細な変化にも気付き、精神面でのケアについても気を付けている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方はいない。必要時は本人及び家族の相談を受け、利用できるよう支援を行う。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問時に疑問点や不安な点を聞き、解消できるよう努めている。また、契約時に加算や重要事項等、時間をかけて説明し、理解・納得して頂いた上でサービス提供が始められるよう心掛けている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見を伝え易いよう、些細な事でも相談や報告を行うよう心掛けている。運営推進会でも家族からの意見を取り入れるよう努めている。また、ケアプラン作成時に要望を把握し、反映している。	ホーム側から些細なことでも相談や報告を心がけることで、話しやすい環境を作り、本人や家族が要望等を言いやすいよう努めている。また、掃除の意見について回数を増やすなど、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を言える雰囲気を作っている。また、年に一度個別面談を行うと共に、相談ごとがあれば、気兼ねなく話す場を設けている。	管理者は、意見を言える雰囲気作りに気を配り、ミーティングや研修会、個別面接などで各職員の意見を聞き、話し合うことを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、扶養手当、キャリアパスが導入されている。能力・資格・経験等に応じた給与水準が定められており、向上心を持ち働けるよう整備している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画により、全体及び個人で参加する研修を予定している。ターミナルケアや記録についての研修等は、全職員に勉強会を通じて発信している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会や集団指導及び個人で参加する研修の場で交流する機会を持ち、情報交換等を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時でのご家族、また、ケアマネ等からの情報を元に、初回面接時に本人が少しでも不安にならないような対応ができるよう留意している。入居後、大きく環境が変化する為、小まめに声掛けを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に、ご家族が抱えている不安や悩み、施設に対してどのような思いを持っているのかを可能な範囲で伺うとともに、主をどのように支援していけるのかを共に考えていくことができる関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査時及び入居後においても随時聞き取りを行い、ご本人、ご家族を支援していく上で必要と感じた際は、他のサービス利用を含めた対応ができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを継続し行えるよう支援をしている。簡単な調理(皮むき、盛り付け等)や洗濯もの干し、花の水やり等、一緒に取り組んでいる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居申し込みの時点から、共に考えていける関係性を築いていけるよう努めており、ご家族の状況・背景を踏まえた上で、可能な範囲で協力して頂けるような関係となるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人との手紙のやりとりの支援や馴染みの場所(故郷や美容室等)へのドライブ、買物へ行く等の個別支援を行っている。	人との直接的な関係継続だけでなく、写真と一緒に見て思い出を語ったり、家族や友人との手紙のやり取りを支援するなど、個別に対応することで関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士が打ち解けられる空間作りを声掛けや作業等を通して行っている。一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、お互いが関わり、支え合える関係が持てるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ建物内に有料老人ホームがあり、そちらに転居をする方も居られる為、たとえ退去後であっても本人及びご家族と触れ合う機会を持っている。その他の方については、偶然お会いした際に近況を伺う挨拶程度である。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から、一人ひとりの希望・思いを把握し、尊重している。意思表示が困難な方に対しては、その方が歩んできた背景を知り、ご家族からの情報も頂き、本人主体となるよう関わることとしている。		担当職員を中心に、日常会話等から利用者の意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得て、本人主体となるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の段階だけではなく、継続的にその方を知る為に、ご本人・ご家族等から情報収集を小まめに行えるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や連絡ノートを利用し、一人ひとりの現状を把握するよう努めている。また、申し送りなどで利用者の方に変化があった際は、都度各職員が自分の目でも確認をするよう周知している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者を担当している職員を中心にし、ご本人に今必要なニーズの把握に努めている。また、主治医に介護計画書を確認してもらい、医療面からのアドバイスを反映できるよう取り組んでいる。		担当職員を中心に、本人や家族のニーズの把握に努め、介護計画に反映している。また、主治医に介護計画書を確認してもらい、医療面のアドバイスを反映できるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って一日の様子の一部を個人記録に記入し、常時職員間で情報を共有し、適切なケアを行えるよう努めている。また、ケアプランの不都合がないかを確認し、意見をその都度出している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者それぞれのニーズに対応できるよう、外出も定期的に行っている。また、デイケアや必要状況に応じて訪問歯科診療や居宅療養管理指導等を利用している。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	付近のデイケアを利用している方がいる。また、食材なども地元の商店から取り寄せている。避難訓練時には、消防団も参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医が定期的に訪診に訪れており、診察をするともに普段と違う状況等を聞き取り、相談にのっている。ご自分で上手く答えられない場合は、職員が代弁している。	それぞれのかかりつけ医の定期訪診があり、こまめに診察を受けることができ、利用者も相談しやすい環境を整えている。また、場合によっては職員が状態を医師に伝えるなど、支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に普段から身体・精神面の変化がないかを随時伝え、状況を把握しており、看護師からの指示・助言等を共有できるようにしている。また、深夜・休日であっても随時相談ができる関係作りを行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師・看護師と情報交換を適宜行いながら、円滑に退院までの流れを作れるよう努めている。また、入院期間中も関係が途切れないよう面会に行くことを心掛けている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合にどのような考えを持たれているかを予めお聞きし、書面に記入をして頂いている。随時、考えが変更になった場合は新しい考えを尊重している。	法人で作成した「看取り介護における対応に係る指針」をもとに、重度化時の意向確認書、見取り介護の同意書等を家族に説明し、十分に納得してもらい、希望に沿えるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しており、職員同士の申し送り等の連携もある程度できているが、今後も継続して学んでいく必要があり、全職員が冷静に対応できるようにしていく。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回火災や地震を想定した避難訓練を実施している。また、夜間の職員数で行う避難訓練も企画をし、消防団に参加を依頼し、有事の際に協力していただけるよう関係性を構築している。	火災・地震等に対する避難訓練は、夜間を想定したり、消防団に参加してもらうなど、地域の力を交えてなされている。隣接する山が掘削され、小規模の土砂崩れがあったり、崩落しやすい状態の崖になっており、安全対策が必要と考える。	市による専門的な調査は行なわれているが、その調査結果を把握し、それに伴う対策等を関係機関を交えて協議し、安全に生活できる環境を整えることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴、性格及び入居してからの様子を踏まえ、敬語を使うことを常として、地元の表現を交えることで安心して会話をできるよう対応している。		各利用者に対して、特に「言葉」には注意を払い、親しい仲でも敬語を使うことを常としている。また、地元の方言や表現を交えることで、住み慣れた所にいる安心感も提供できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難でも、普段と違った様子や表情から思いをくみ取り、その時その時の希望や好みを把握するよう努めている。しかし、不穏状態のある利用者については、思いを受け留めざるできない現実もある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースで行動できるよう努めており、どうしても良いのか分からない様子が見られた際、声掛け・説明し、様子を見守っている。職員配置、行事等の都合になってしまう事も否めず、希望に添えるよう改善したい。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、鏡を見ながら櫛を手渡し、髪の毛を整えてもらったり、更衣の際は好みの衣類を選択して頂けるよう声掛けをしている。外出時には、それも踏まえアクセサリーを持参している方は身に付けて頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、できる方には野菜の皮むきや盛り付けを行って頂き、テーブル拭きや下膳等の準備・片付けを職員と一緒にしている。		調理作業のできる利用者には積極的に参加を促し、できる範囲の準備・片付けを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表に食事摂取量や必要に応じ別表に水分摂取量等を記載し、状態を把握し易いよう努めている。定期的に水分補給を勧めると共に、訴えがあった場合はその都度提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや自力で困難な場合は声掛けし、一部介助を行い、洗面台まで移動している。義歯を使用している方については、夜間預かり、職員が磨き残しを洗浄し、清潔に保てるよう支援。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員がトイレでの排泄ができるよう支援している。排泄チェック表に記載し、パターンを確認し、尿・便意が曖昧な方に対しては、声掛けやトイレまで付き添うことで気持ちよく排泄を済ませられるよう支援している。	職員が排せつパターンを確認し、必要な方には一人ひとりさりげないアプローチを行うことで、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中にラジオ体操、足の運動を取り入れている。メニューの中にも野菜を多く取り入れると共に乳製品を水分補給時に飲んで頂いている。また、おやつ時には寒天を提供できるよう準備している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合にて週5日、午後からの入浴となっているが、その中で希望を聞き、好きなタイミングで入ることができるよう努めている。	タイミングや希望にあわせ、入浴を楽しんでもらえるよう、週5日の入浴日を設けている。浴槽の縁が幅広く、またぐのが難しかったり、深かったりとハード面では厳しいところがあるが、福祉用具を活用し、工夫して支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調や日当たり等を調節し、利用者が快適に過ごせるよう配慮をしている。自動車学校の教習時に機械音や土砂の音が大きい為、気になることがある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての利用者の服薬管理を職員室にて行っている。薬情を日誌と一緒に綴じ、注意点等があれば申し送ることとしている。また、薬が変更になった場合は、服薬前後で変化が無いかを注意し、観察している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課については継続して行えるよう支援している。また、日ごろの様子を観察し、新たな役割を見つけられるように努めていく。誕生祝や季節毎の行事としてドライブ等を企画している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場への散歩や故郷巡りと称しドライブ等を行っている。また、利用者の中には定期的にご家族と一緒に外出をし、買物や外食を楽しまれている。	近隣への散歩、外食や買い物など、利用者のニーズに沿った支援に加え、定期的なドライブも実施するなどしている。また、家族の協力で外出を楽しむ利用者もいるなど、できる限り希望に沿った支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員、財布を預かっており、使用する際は目的や金額などを家族に相談したうえで使用している。使用した際は出納帳に記載し、家族にも確認をして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話を取り次ぐことで会話をして頂けるようにしている。また、手紙は自由に書いて頂き、投函等の支援を行っている。ただ、トラブルの恐れもある為、送り先についてはご家族に相談し、了解を頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロアの模様替えを行っている。過度な変更はせず、さりげなく一部分だけ替えるようにしている。個室には、写真や自分で色を付けた塗り絵を飾ることとし、認知症の方も安心して生活できる空間にしている。	見晴らしの利くフロアがリビングと食堂になっており、壁にはさりげなく季節感がある飾り付けがなされ、くつろげるスペースになっている。浴室や洗面所、トイレは入り口近くにまとめて配置し、気兼ねすることなく使用できるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、数人で腰掛けられるソファがあり、独りで過ごしたり、気の合う利用者とは過ごしたりといった使い方ができる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品、布団や思い出のある物、写真などを飾って頂き、自宅を感じられるよう支援している。	本人、家族と相談しながら、寝具やたんすなど、使い慣れたものを配置し、自宅にいるように居心地良く安心して暮らせるよう支援している。また、家族の写真や自作の絵を飾るなど、自分らしい空間作りの支援も行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定で、車椅子や杖を使用し移動する方がいる為、テーブルや椅子を真中に置くことで、廊下を広くできるよう努め、安全に行き来がし易いよう配慮している。			